

第 3 回草津市中学校スクールランチ検討委員会 議事概要

近隣市の中学校スクールランチ事業比較、業者アンケート調査等について

- ・業者へのアンケート調査によると、1年間で費用は大体いくらぐらいになるのか。
→業者からの調査を大津市の積算に置き換えた場合、1校あたりで考えると、75万5千円。全体で見ますと453万円と見込んでいる。
- ・453万円は、草津市の負担ということで、各家庭は400円ぐらいを負担するということか。
- ・草津市の全生徒数が、約3300人。スクールランチの目標を2%とすると1日あたり66食。1日に1校あたり11～12食と考えたらいいのか。
→1日平均でそれくらいになる。
- ・税金を使うことについて、市民の賛同は得られるのか。「自由選択性」というものを、強くアピールすることで、だれでもが利用しようと思えば利用できる。
- ・利用しようと思えば利用できるという体制であるならば、税を使っても一定の理解は得られるし、説明もできる。
- ・気軽に頼める状況であれば使える。例えば、当日の朝でも電話すれば可能というのであれば利用があると思う。
- ・弁当が用意できないときに、子どもにお金を渡して、登校途中で買う、または先生に買いに行ってもらおうという状況を解消することはできる。
- ・気軽に利用できることはとても有難いことだ。ただ、弁当の良さを忘れないでほしい。
- ・税金を投入するということで、平等さを考えると、自由選択制という言葉を書いても大丈夫かなという気もしている。税金も使っているということで、自由選択制を入れる方が理解されやすいということもよくわかる。
- ・弁当の良さということからすると、レシピ集の作成も考えられるし、通知文のあたりでもそのへんのところを確認することが必要。
- ・食に対する感謝の気持ち、食の大切さをわかっていない子どもは多い。弁当持参を原則とするのは、一定の効果があるのではないか。
- ・自由選択制については、中学校の入学説明会が行われるときの「しおり」の記述についても、検討していかなければいけない。
- ・自由選択制だが、基本は弁当ということをやわらかい表現ですということが大事。
- ・現行のスクールランチの充実というのがテーマにある。大津市をもとに設定していただくといい。現場の中に、さらに仕事が増えるということは不可能な状況ですし、トラブルも起こりやすい。
- ・大津市をベースに草津市として考えた時に、現場の負担を考えると、1～2時間前に配送されているというのは変えた方がよい。
- ・箸は持参するとか、ランチボックスを使用するとかは、経費節減につながるが、保護者にも本人にも食育につなげていく必要がある。
- ・小学校には、コップと箸を持って行っているのでも、そのままの流れで箸を持っていくことに違和感はない。
- ・先生方が食べている業者弁当の容器は中学生には抵抗、特に女の子は抵抗がある。
- ・弁当を進めるという方向と、スクールランチ利用率を上げることや、スクールランチの内容充実というものが、どうしても同じ方向に向く内容ではないように感じている。
- ・弁当原則ということ強く打ち出すことによって、せっかくのスクールランチの利用率が伸び

ないとか、あまりに弁当を突き進めることによって、逆にどこかで買ってきて食べるということが増えるという問題点も考えると、自由選択制に考えが変わってきている。

本市中学校スクールランチの充実について

- ・利用ガイドやレシピ、食育関係の活動などを具体的にどこがやるのか。現場との調整を今後の課題ということで入れた方がいい。
- ・インターネットや携帯電話で注文でき、決済まで済んでしまうような仕組みというの、どこかで入れられればいいのか。
- ・今考えているのは、子どもがお金と引き換えに弁当を購入する方法か。
→大津市と同じように、支払いについては配膳員さんに手渡しになる。
- ・子どもが学校に400円の現金を持って行って、そこでなにかあるっていうのも怖いという思いもあります。
- ・親はご飯だけ炊いておく、そして、晩のおかずの残りとか、朝玉子を焼いて、自分たちで弁当を用意するというのも大事。
- ・料理教室を開くとか、レシピ集を配布するという工夫を今考えておられますけれども、具体的にどこが行うかということまで検討しておくほうがいい。
→小中学校では、毎月19日を食育の日として取り組んでいる。そこでできないことを教育委員会が何かやり始めるという形で考えていきたい。
- ・スクールランチのメニューを配る時に、年に2回ぐらい、お弁当の作り方というものも伝えていけるのではないかと。
- ・親子でというのもいいが、子どもたちだけでも自主的にやろうかというような流れが出てくると有難い。
- ・家の人と相談して、中学校に入ったらできることはやろうと弁当を作っている子がいる。
- ・現場の先生方とうまく連携をとり、授業の中でうまく取り入れられるように。
- ・健康推進委員なども関わっていけるのではないかと。
- ・中学校の家庭科は、昔に比べて授業数が減っているもので、調理実習をするだけの時間が無い状況である。
- ・授業以外のところで、協力していただければ、足りない点をプラスしてもらいたい。
- ・保護者や子どもに対する周知が重要だと思う。自由選択にして少しでも利用してもらおうというのであれば、試食会はあったほうがいい。入学した時のお知らせは、みんなが見ている。
- ・大津市広報では、「来年からこうなりますよ」というパンフレットを出している。見通しがたつと、みんな関心を持っていただけるし、早い目に出した方が関心も高まる。